

まえがき

深澤広明 3

第 I 部 戦後教育と教育方法学

1 教育方法学研究における「戦後」教育実践 折出健二 12

- 1 教育方法学とはどういう学か 12
- 2 「戦後」の意味 13
- 3 教育実践を研究する要件 15
- 4 教育実践の思想的側面 18
- 5 結び 23

2 沖縄における平和教育実践の課題と展望

—「モノ」教材と「共感共苦」を生み出す教材の有効性— 山口剛史 25

- 1 はじめに 25
- 2 沖縄の平和教育の課題 25
- 3 課題を乗り越える教育実践を考える 28
- 4 沖縄戦学習における共感共苦を生み出す授業の実際 32

3 学校は「いじめ」問題にどう取り組んできたか

—いじめへの指導のこれまでとこれから— 田淵久美子 40

- 1 学校の教育実践における「いじめ」問題への取り組みをどう見るか
—課題研究の発表から— 40
- 2 実践を読み直す—1970年代後半から何が起こったのか— 44
- 3 発達の視点からいじめの問題状況を読み解く 47
- 4 これからの指導のあり方を考える—ゼロトレランスとの関連で— 50

4 戦後教育実践史における〈教育の生活課題化的構成〉の系譜

奥平康熙 53

-
- 1 子どもの生活の課題に応答する教育実践の構成 53
 - 2 石田和男と恵那地域の教育実践
—「生活綴方の精神」をもって教育を立て直す— 56
 - 3 高校女子生徒の生活現実に応答する吉田和子の実践 60
 - 4 子どもの安心という課題に応える綴方実践
—なにわ作文の会と土佐いく子— 62
 - 5 「教育の生活課題化的構成」の位置 64

第Ⅱ部 教育実践研究におけるエビデンスとは何か

1 教育実践研究における「事実」とは何か

藤江康彦 68

-
- 1 はじめに 68
 - 2 「事実」をめぐる言説 68
 - 3 事実と解釈 70
 - 4 「事実」の生成 72
 - 5 おわりに 79

2 授業研究におけるエビデンスのつくり方

—国際交流の視点から—

的場正美 82

-
- 1 エビデンスはどのような分脈で語られるか：授業研究への示唆 82
 - 2 教育学研究におけるエビデンスをめぐる論議 84
 - 3 授業研究の類型と文化依存度レベル 87
 - 4 授業研究において何がどのようにエビデンスになるのか 90
-

3 性の多様性をめぐる授業実践の課題と展望 永田麻詠 95

- 1 中等教育段階の子どもの実態 95
- 2 学校教育における取り組み 97
- 3 性の多様性をめぐる授業実践の展望—包括的性教育を手がかりに— 100

4 進路多様高校におけるカリキュラム開発 望月未希 108

—社会に開かれた教育の追求—

- 1 はじめに 108
- 2 A校の状況 108
- 3 カリキュラム開発の構想 109
- 4 カリキュラム開発の取り組み 111
- 5 実践の具体例 113
- 6 生徒の変化 118
- 7 おわりに 120

第Ⅲ部 教育方法学の研究動向

1 幼児教育の方法に関する研究の動向と課題 岩田遵子 124

- 1 はじめに 124
 - 2 保育環境についての研究動向 126
 - 3 幼児理解についての研究動向 127
 - 4 保育者の専門性 130
 - 5 「方法」と「臨床」の往還を提案している研究 131
 - 6 保育方法に関する研究の課題 132
-

2 高等教育に関する研究動向

杉原真晃 136

- 1 アクティブラーニングと教育方法 136
- 2 テクノロジーと教育方法 138
- 3 コミュニティへの参加と教育方法 140
- 4 ユニバーサルデザインと教育方法 142
- 5 まとめ 143